

TRC幹事会

国交省と意見交換

ICT土工などテーマに

新事業や新技術の開発などに挑戦する全国の地域建設業者で組織する建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶應義塾大学特任教授)の幹事会は10日、国土交通省内で同省幹部との意見交換会を開いた。写真。

ICT土工をはじめとする生産性向上に向けた取り組みや、担い手の確保・育成などをテーマに、

現状報告や要望・提案を行ったもの。ICT土工については、UAV写真測量の撮影条件規定の緩和、施工者へのインセンティブ付与などを求める意見が幹事会メンバーから上がった。

普及を促すためのインセンティブ付与(入札時での加算)、適切な土工量など、ICT土工に関わる提案を行った。国交省側は今後の状況を踏まえて検討するとして、

「3次元データを活用した測量、設計、施工、検査、維持管理を行う時代」にきている。進め方のスピードは皆さんと議論していきたい(五道仁実技術審議官)とし、生産

性向上に向けた取り組みへの積極的な協力を求めた。担い手の確保・育成については、技能者の高齢化や新規採用の難しさなど、厳しい現状を訴える声も相次いだ。「建設業の魅力を楽しく、明るくPRしてほしい」と業界のイメージアップ施策を求める意見もあった。

国交省側は、「社会保険の加入促進をはじめとする処遇改善策に力を入れ」とともに、建設キャリアアップシステムの構築・運用などを通じて建設業の持続可能な

発展を目指す(海堀安喜建設流通政策審議官)とした。イメージアップ戦略については、建設業の仕事の魅力を紹介

するサイト「建設現場へGO!」の充実などを挙げた。意見交換会には幹事42人の他、国交省側から五

道技術審議官、海堀建設流通政策審議官、石原康弘技術調査課長、平田研建設業課長らが出席した。

第12回フォーラム

大規模災害への備えに焦点

建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶應義塾大学特任教授)は10日、都内で幹事会を開き、2017年度事業計画などを協議した。

来年7月4日に開催する予定の第12回建設トップランナーフォーラムについては、これまでの

想定を超える大規模災害への備えに焦点を当てた内容とすることを確認した。第12回フォーラムでは、過去の災害での教訓を生かした備えや、複業から見た地域防災などについて、事例発表とパネルディスカッションを行

う方向。17年度(17年1~12月)はこの他、2月3日に「建設業と農林水産業の連携シンポジウム」と幹事会総会・研修会、5月に視察研修会(新潟県)、7月に建設新施策事業研究会との交流会などを行うことにしている。



ICT土工をはじめとする生産性向上に向けた取り組みや、担い手の確保・育成などをテーマに、幹事会側は「精度を保つための規定が厳しいのではないか」と、UAV写真測量による出来形計測などを行う際の撮影条件の規定緩和を要望。これに対して国交省側は、日本建設業連合会と共同で現場検証を行うことを説明。検証結果を受けて、規定の緩和を検討する考えを示した。

幹事会側はこ
の他、さらなる